

令和5年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校訓	「誠の心にしがいい信念を貫く」 校訓の「誠の心にしがいい信念を貫く」のもとに、実践力のある生徒の育成を図る。		重点目標	「SEIKEI PRIDE」（誇りをもって卒業できる生徒） (1) 学力と生活力の基盤づくり ・一年次においては、学力と生活力の基盤づくりを進める。 ・通信端末による視聴覚教材を活用し、学習習慣の確立、基礎学力の定着、学習到達度の向上を目指す。 (2) 個性を尊重した進路指導の推進 ・二年次においては、一人一人の個性を大事にし、個性を尊重した進路指導を推進する。 ・自分の進むべき道について、自ら探究し、正しく判断し、よりよく表現や行動ができる。 (3) 社会で活躍できる人づくり ・三年次においては、社会で活躍するために「社会人となる」にふさわしい人材の育成。 ・目標を持って、自らの未来を切り開いていけるようにする。		学校法人 誠恵学院 誠恵高等学校 校長 鈴木 珠美	
	学校教育目標	「新たな時代を豊かに生きる人材の育成」 (1) 社会人としての必須スキルを身に付けさせる。 (2) マルチなコミュニケーション力を身に付けさせる。 (3) 彩り豊かな教育課程を編成し、臨機応変な対応力を身に付けさせる。		総合評価	(評価) B (評価文) 今年度は、心の相談室「Mirai café」やSSWチームの設置、図書館のリニューアルなど、生徒の心の相談や保護者とのより一層の連携のための相談業務の拡充を目指した。個に応じた指導の充実を視野に、不登校対策に引き続き取り組んでいきたい。		
重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価		III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	①自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化に力を入れる。学力の定着と学習意欲の高揚を図る。	予習・復習の習慣化、学力の定着化を図るための手立ては（小テスト等）適切であったか。	B	授業内容を自分の事として考えられるように、探究学習を授業課題に取り入れ、自ら学習に取り組む姿勢を養うことができた。反省点としては、単元ごとに小テストを実施することを心掛けたが、学校行事や学期末の特別日課により授業時間が足りなくなってしまうことが多く、実施できない単元もあった。	B	スタディサプリやMonoxerなどの補助教材を活用し、予習・復習を充実させる手立てが取られていた。また、図書館がリニューアルされ、探究につながる本の増設や、自習スペースなどの環境が整えられていた。	
	②充実した指導計画のもとに教科指導を行い、多読、繰り返し学習などにより、「わかりやすく」「魅力ある」学習を展開する。	多読や繰り返し学習、また、「わかりやすく」「魅力ある」授業を行うことができたか。	B	定期試験対策として、学習内容をまとめたプリントやMonoxerの問題を作成し、繰り返し学習ができるように支援できた。また、教科内での研修を通して、魅力ある授業となるように、効果的な指導方法の情報交換ができた。今後は他教科とも、横断的な研修を行い、個の指導スキルを高めていきたい。	B	積み重ねの知識が必要な数学や英語などの強化において、基礎基本を大切に授業が展開されている。視聴覚教材も充実されているので、それらを活用し、教科書だけにとらわれない、より魅力ある授業を目指していただきたい。	
	③補助教材として「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用し、自学自習による学力の向上を目指す。	「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用した学習に目標を持たせ、意欲的に取り組ませることによって、基礎学力を向上させることができたか。	B	昼休みにスタディサプリ・Monoxerに取り組む時間を設けたことで、前向きに学習する生徒が増加した。また、学期毎に実施しているスタディサプリの到着度テスト結果をもとに、成績上位者を表彰するなど、意欲向上につながる工夫をした。今後は、上昇値などにも焦点を当てて奨励していきたい。	B	努力が点数となって視覚化されることで、生徒の自信につながっているように思う。今後も様々な角度から奨励し、意欲につなげて欲しい。	
	④目的意識を持って学習に参加できるようにする。漢字検定、英語検定、数学検定及び情報各種検定、その他検定試験に挑戦し、資格取得者を増やす。	目標を持って学習に取り組ませ、興味・関心・意欲等を高め、成果を上げることができたか。	B	将来を見据え、資格取得に関して意欲的に取り組む生徒が増加している。そのため、各種検定の関係教科で、放課後に資格取得に向けた指導を実施するなど、バックアップの体制を整えることができた。今後は歴史検定など、資格の幅を広げて指導していきたい。	B	近年、資格を得点化し、大学受験でプラスにはたらくところが増えていると聞く。また就職の際、資格欄が充実していることも大きなアピール材料になると思う。そのため、進路研究と紐づけて、自身の進路に有効な資格を明確にするなどして、取り組ませて欲しい。	

重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力を図る充実	⑤個に応じた指導、習熟度等に対応した授業の工夫・改善により、分かりやすい授業を行う。	校内研修や各教科部会等での研修を通して、学習指導法の改善に努めることができたか。	B	習熟度に応じた授業が実施できるよう、TTを設けるなどの工夫をしている。また、個の特性に対応できるよう、本年度は生徒理解研修や生徒指導研修を全職員で複数回実施し、指導の改善に努めた。	B	生徒の数だけ個性や得意・不得意があり、習熟度に対応した授業の実践は難しいと思う。しかし、放課後などを利用しての個別指導を充実させるなど、手厚く指導している。
2. 日々の生活の充実を図る	①自己を大切にし、他人への思いやりを持った責任ある行動をとる。生徒との意見交換を通して、生徒を育てる。自らの意志と責任で行動できるようにする。	全教育活動を通して個に応じた指導を進め、また、カウンセリングマインドで生徒に接し、生徒の心を育てる教育が実践できたか。	B	Mirai café（相談室）などを有効活用し、生徒の悩みや不安についての傾聴に努めた。その後、視点を変えるアドバイスや、将来を見据えた指導をカウンセリングマインドで実施することができた。	B	今年から Mirai café を設置するなど、生徒が抱え込むことなく、相談しやすい環境がよく整えられている。また、急な行動の改善や変化を求めることがなく、ゆっくり時間をかけて育ててくれている。
	②生徒の良い点を伸ばし、改めるべきことは改めさせてやる気を育てる。	生徒ひとりひとりに改めるべきことを自覚させ、良さを見出し、意欲の向上につなげることができたか。	B	校長より、「ハインリッヒの法則（ヒヤリハットの重要性）を常に意識した指導を」という話があり、特に学級経営において、その場での指導を心掛けた。また、そのアフターケアも副担任をはじめ、職員間で情報を共有しながら丁寧に行い、生徒の成長を奨励する指導ができた。	B	小さなことでも、生徒の良い変化や行いに気づいてくれる先生が多く、生徒の自己肯定感が高まっている。改善に関しても、伝え方を工夫しながら指導している。
	③挨拶・言葉遣い・服装等を正し、遅刻・欠席の防止、清掃の指導を徹底する。教職員は倫理を重んじ、自己試練を含め厳格なる手本を示し、生徒の範となるよう努める。	教師として厳粛なる倫理観のもと生徒に範を示し、遅刻・欠席を減らす指導や、適切な挨拶、言葉遣い、服装等の生活指導を、厳しくまた温かく進めることができたか。	B	挨拶・言葉遣いについて、生徒の範となるよう常に注意した。距離感がうまく取れない生徒が多いため、友達のように発言してしまう生徒が散見されたが、つき放すような強い指導ではなく、温かい表現で諭し、良い関係性が構築できるように努めた。	B	コミュニケーションを円滑に取るためには、親近感のある挨拶や言葉遣い、対応も必要かと思う。「適切である」ということに焦点を当て、TPOに合わせた対応、時間を厳守することの大切さなどをバランスよく学ばせて欲しい。
	④社会に出て認められる人間になるよう自らを伸ばし、他とともに切磋琢磨する。社会貢献の気持ちを育てる。	授業・諸活動の体験等を通して、ボランティア精神や社会貢献の気持ちを高めることができたか。	B	e スポーツ部や高校珈琲計画などの諸活動をはじめ、沼津市の地域の方々と交流する場面を多く設定することで、社会貢献の気持ちを高めることができた。学年問わず自主的に参加する生徒が多く、ボランティア精神が育まれていると実感した。	B	多くの人との出会いが、人間性を育む上で重要だと思う。今後も外部での活動を増やし、地域との交流などを通して、生徒の成長につなげて欲しい。
	⑤生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の指導すべき点は同一歩調で対応し、その場で正し、職員の連携を図る。細心の注意をもって生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。	生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を適切に行い、保護者との連携のもと全校体制での対応ができたか。	A	家庭訪問や三者面談、電話連絡など、家庭との連携を密に取り、情報共有を徹底することができた。また、家庭訪問や面談の際には必ず複数の職員で対応するなど、細心の注意をはらった。指導経過の報告に関しても、管理職まで確実に伝達し、全校体制で対応した。	A	三者面談や電話連絡が適宜なされている。また、不登校傾向の生徒指導のため、SSW（スクールソーシャルワーカー）が設けられ、家庭と連携しながら指導が進められている。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
3. 社会に貢献する態度と能力を育てる	①社会人となるにふさわしい健康管理を身につける。	生徒自らが進んで規律正しい生活、健康の保持・増進等に努めることができる指導を適切に行い、その成果をあげることができたか。	B	同じフロアの複数クラスが、インフルエンザによる学級閉鎖となった。感染症が流行の兆しを見せてからの注意喚起などの対応を、より強く迅速に、全校体制で行う必要があると感じた。また、ゲームや携帯電話の使用時間に関しての指導を適切に行うことで、睡眠時間を確保することへの意識づけができた。	B	ゲームや携帯電話に関する指導は、健全な生活を育むためにも必要だが、近年では犯罪などに巻き込まれるケースも多く、心身ともに健康な高校生の育成を目指すためにも、家庭と連携して進めていく必要があると感じた。感染症に関しても同様に、家庭と同一歩調で進めていきたい。
	②目標を持って自らの未来を切り拓いていく。	個性に応じて進路が決定できるようにするため、一般的な教養を高め、専門的な技能の習得に努めさせることができたか。	B	生徒の好きなこと、得意なことを把握し、それに関する会話を日常の中であることで、向上心や探究心を引き上げることができた。その結果、専門的な知識や技能の習得に努める生徒が増加した。	B	学校全体が人と違う部分を嫌う、画一的でなければならないといった風潮ではなく、人と違うからこそすごいと奨励してくれるような状態であるため、生徒それぞれが好きなものに関する専門知識をとことん追求・習得できる環境になっている。
	③「社会に必要とされる人材の条件」を理解させ、人生を豊かにできるよう指導する。進路指導計画の充実を図り、保護者・生徒との相談に応ずる。	進路指導を計画的に進め、資料提供や進路相談を適切に行い、進学・就職指導に留まらず生き方指導につなげることができたか。	B	進路希望調査や三者面談を適切に行い、各自の進路に沿った資料提供や指導を徹底することができた。また、スタディサプリを利用したキャリア教育や、全校での進路説明会への参加など、生徒の学年・段階に対応した進路指導を進めることができた。しかし、生き方指導までの発展には至らなかったように思う。	B	地元企業や多くの専門学校・大学による合同説明会を学校単位で開催している。保護者も参加でき、学費の話などの相談ブースも設けられているため、家庭で進路について考えるよい機会となっている。今後もそのようなイベントを継続して開催してほしい。
	④進学コース、普通コースの指導を充実させ、国立大学、有名私立大学への進学を増やす。	進学希望者への学習支援を行い、学習環境を整え、受験への対応ができる指導を進め、成果を上げることができたか。	B	図書館を Stella library として改装し、自主学習スペースの増築、本の増設を行うなど、学習環境を整えることができた。また、難関大学を志望する生徒に対しては、受験科目に応じて各教科で個別指導を進め、成果を上げることができた。	B	指定校推薦の枠が充実しているため、指定校推薦での進学者がこれまでは多かったとのことだが、近年では共通テストを利用した進学者が増加していると聞く。チャレンジをすることは大切だと思うので、より高みを目指せるように、共通テスト対策の指導をより充実させて欲しい。
	⑤就職指導では、企業訪問など本校の実績を更に高めるよう努力する。	就職希望者の求職意欲を高め、企業訪問を実施し、就職内定率を高めることができたか。	B	企業訪問や名刺交換会において就職先の新規開拓に努め、多くの大手企業から内定を獲得するなど、成果を上げることができた。	B	「卒業生が活躍しているから」という理由で、学校指定の求人を出してくれる企業が多いと聞く。新規で雇用してくださった企業との良い関係を築いていくためにも、会社や地域で活躍できる人材の育成に、今後も励んで欲しい。